

## 生涯教育研修マニュアル改訂にあたって

日臨技生涯教育研修制度は、一般教育課程に引き続き、既に下記の 3 専門教育研修課程が準備されております。

1. 管理運営課程
2. 精度管理課程
3. 遺伝子検査課程

奈臨技は、この制度をより多くの会員が理解し、活用して戴くための手助けをするべく

「生涯教育研修委員会」を本年度も設置し、その一環として「奈臨技・生涯教育研修マニュアル」を作成する運びとなりました。

日臨技では、生涯教育研修制度と「教育」の言葉を使っておりますが、本来の持つ意味は「生涯学習を手助けする制度」であります。

人は、「生涯学習」が必要との理念は、会員の皆様は既にお持ちのことですし、生涯学習については、いまさら論ずる必要もないと思います。

人が、なにかをしようとする意欲をもつもっとも大きな要因は、刺激を受けることにあります。最先端の知識や技術を研修会や講習会のみで取得するのは困難なことかもしれません。しかし、そこで刺激を受け学習しようとする意欲をもつ「きっかけ」を作ることが大事だと思います。新しいことに踏み出すのは大変でしょうが、より多くの「きっかけ」に挑戦して戴くよう希望します。

生涯教育研修に関するご相談は、どんなことでも結構です「奈臨技・生涯教育研修委員会」にご連絡ください。

「日臨技・生涯教育研修制度ガイドライン」は、会誌「医学検査」2003年6月号/Vol.52』6に案内されておりますので参照ください。

最後に、委員の皆さんのご努力に感謝します。

平成15年10月

会長 山名正夫

## 生涯教育研修委員会名簿

平成 14～15 年度

(委員会名称) 生涯教育研修委員会

所管	渉外部	委員長：倉本哲央	副委員長：新木義之	設置：平成 14 年 6 月 18 日
----	-----	----------	-----------	---------------------

五十音別

氏名・会員番号	施設名	〒	所在地	Tell/Fax
猪木正允・290187	県立奈良病院	631-0846	奈良市平松 1-30-1	0742-46-6001 0742-46-6011
倉本哲央・290052	県立五條病院	637-8511	五條市野原町 197	07472-2-1112 07472-2-1031
城 志郎・290118	天理市立病院	632-0072	天理市富堂町 300-11	0743-63-1821 0743-63-1825
新木義之・290241	県立奈良医大附属病院	634-8522	橿原市四条町 840	0744-22-3051 0744-22-4810
辻本武寛・290153	済生会御所病院	639-2306	御所市三室 20	0745-64-1008 0745-64-1009
丹羽欣正・290046	県立奈良医大附属病院	634-8522	橿原市四条町 840	0744-22-3051 0744-22-4810
増谷喬之・290217	県立奈良医大附属病院	634-8522	橿原市四条町 840	0744-22-3051 0744-22-4810
山下幹男・290269	県立奈良医大附属病院	634-8522	橿原市四条町 840	0744-22-3051 0744-22-4810
山本慶和・290069	天理よろづ相談所病院	632-8552	天理市三島町 200	0743-63-5611 0743-62-5576
土屋直道・290360 協力委員	天理よろづ相談所病院	632-8552	天理市三島町 200	0743-63-5611 0743-62-5576

担当三役／担当部長／担当理事

倉本哲央・290052	県立五條病院	637-8511	五條市野原町 197	07472-2-1112 07472-2-1031
新木義之・290241	県立奈良医大附属病院	634-8522	橿原市四条町 840	0744-22-3051 0744-22-4810

部会担当者      ○部長

一般研修部会	事務部会	学術研修部会
○城 志郎	○新木義之	○山本慶和
増谷喬之	山下幹男	丹羽欣正
猪木正允	土屋直道	

# 目 次

渉外教育研修マニュアル改訂にあたって

平成 15 年度「生涯教育研修委員会」名簿

---

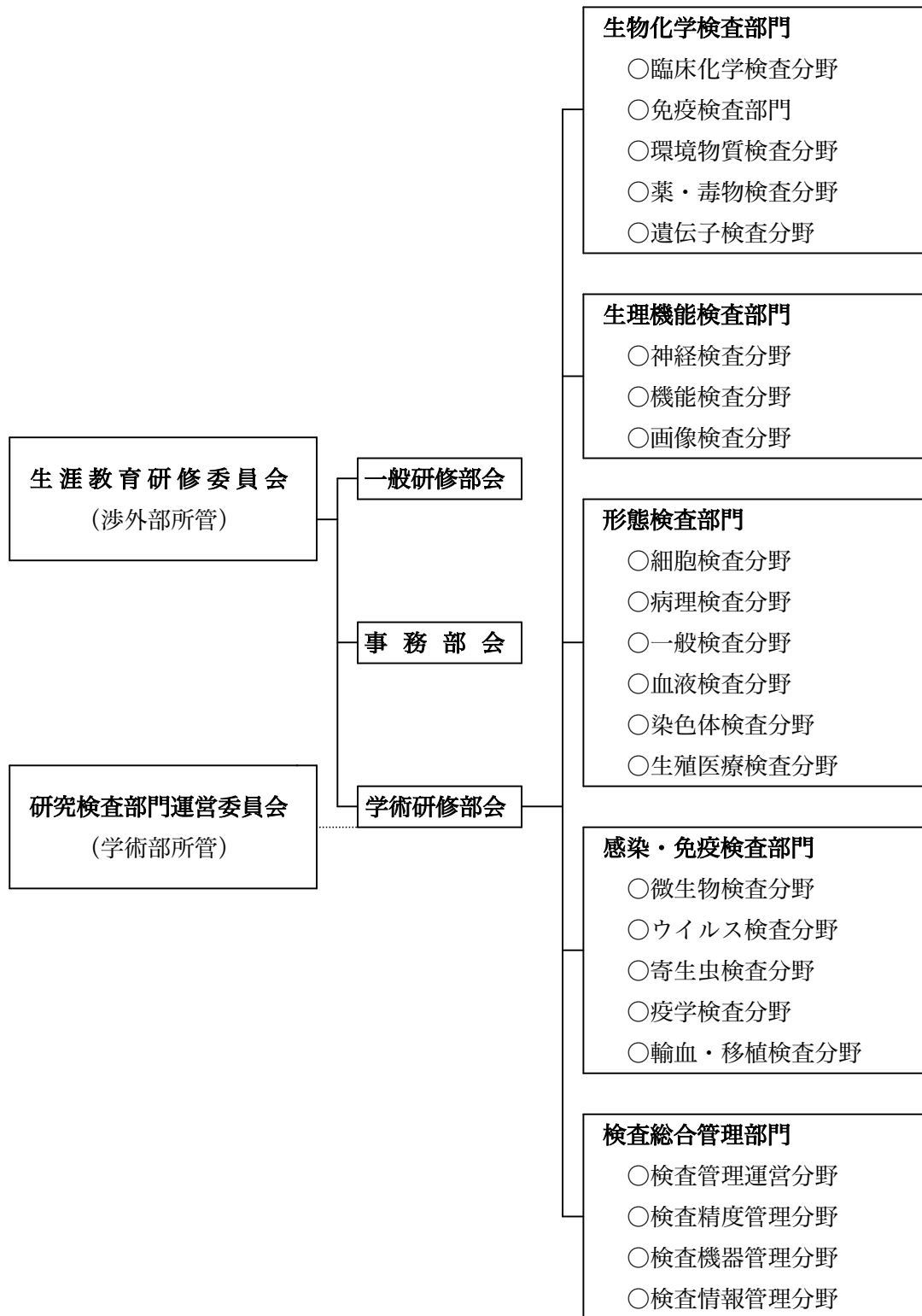
1. 生涯教育研修委員会組織図
2. 生涯教育研修委員会／部会の業務一覧
3. 「一般教育研修課程」に関する委員会の処理事項
  - 1) 一般研修部会・新人研修部会が行うこと
  - 2) 事務部会が行うこと
4. 「専門教育研修課程」に関する委員会の処理事項
  - 1) 学術研修部会が行うこと
  - 2) 研究検査分野長(研修会担当者)が行うこと
  - 3) 事務部会が行うこと
5. 会員の皆さんへ ― 「生涯教育研修」履修に関するお知らせ―

資料：

1. 日臨技認定関連学会・団体等一覧
2. 生涯教育研修・実施（広報）申請書
3. 生涯教育研修・実施報告書

編集後記

# 1.生涯教育研修委員会組織図



(平成 15 年 6 月)

## 2.生涯教育研修委員会／部会の業務一覧

	委員会／部会 (所管)	業 務	履修該当教科
生涯教育研修委員会	学術研修部会 (学術部)	学術研修の企画と運営 1. 会員が学術の研鑽に励み、より高い専門性を発展させるための研究検査等にかかる研修（検査研究部門活動、学会等）	B・C
	一般研修部会 (渉外部・組織法規部)	一般研修、新人研修に関する研修会の企画と運営 1. 医療人としての一般教養を高める企画 2. 新人会員に技師会活動の理解を深めるための企画 3. 組織が抱える問題を正しく把握し、将来の方向性を見出すための企画 4. 会員の親睦を高めるための企画 5. 自治体等が実施する医療、健康等関連行事への参画	A・B
	事務部会 (渉外部)	広報と記録 1. 「研修に関する事項の会員への広報と実施記録及び会員の参加記録」 2. 日臨技生涯教育委員会への報告処理 3. その他の事務処理	

註／ A：基礎一般教科  
B：基礎専門教科  
C：臨床専門教科

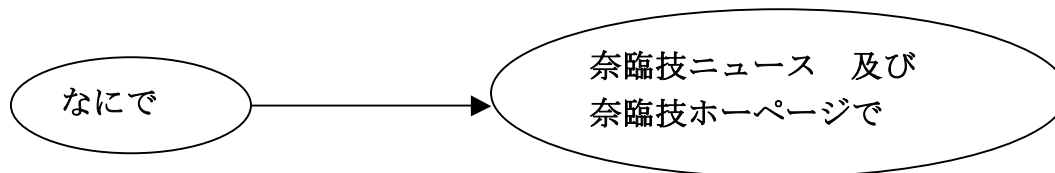
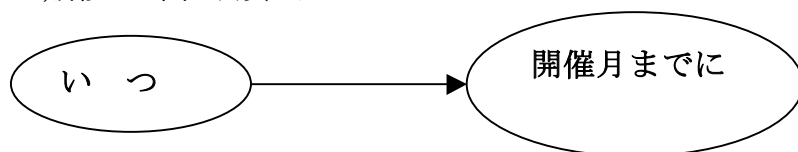
### 3. 「一般教育研修課程」に関する委員会の処理事項

1) 一般研修部会・新人研修部会（一部は学術研修部会）が行うこと

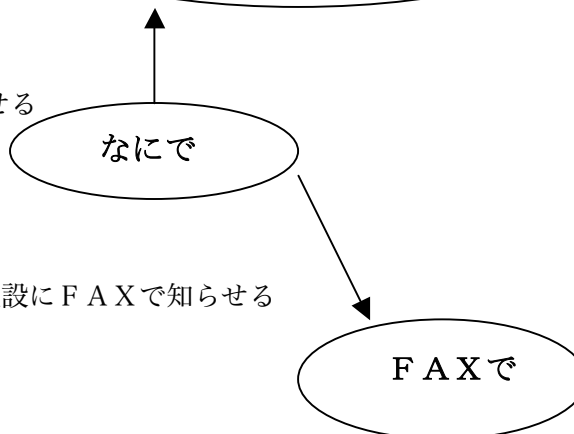
- 1, 一般教育研修課程に関する企画と運営
- 2, 日臨技からの要請に基づく一般教育研修課程に関する運営

2) 事務部会が行うこと

- 1, 研修の企画を会員に知らせる



- 2, 研修会の変更や中止を会員に知らせる



ニュースが間に合わない場合は、各施設にFAXで知らせる

3, 自己申告書の受領

4, 会員から届けられた自己申告書を日臨技へ送付する

#### 4. 「専門教育研修課程」に関する委員会の処理事項

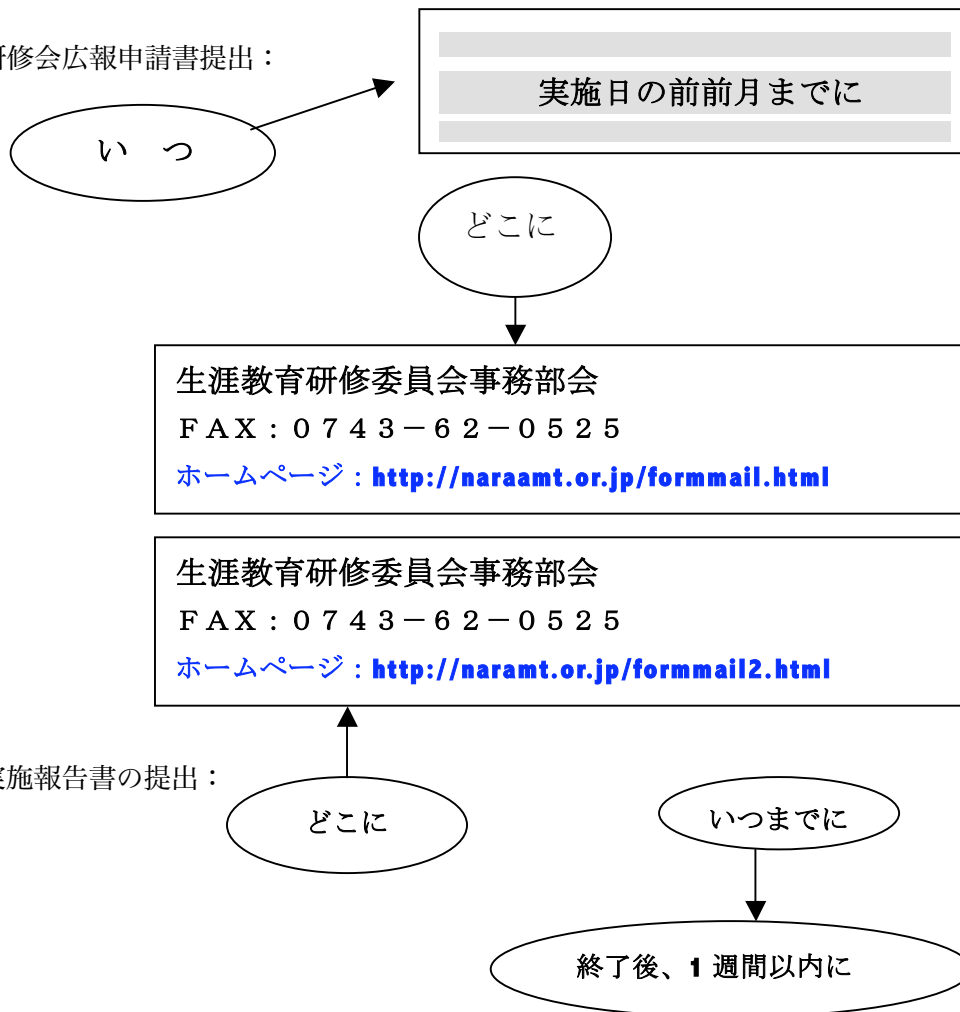
##### 1) 学術研修部会が行うこと

- 1, 専門教育研修課程に関する企画と運営
- 2, 日臨技からの要請に基づく専門教育研修課程に関する運営

##### 2) 研究検査分野長(研修会担当者)が行うこと

- 1, 企画申請書の提出：研究検査部門運営委員会へ、所定の日時まで提出

##### 2, 研修会広報申請書提出：



##### 3, 実施報告書の提出：

##### 2) 事務部会が行うこと

一般教育研修課程に準ずる。

## 5. 会員の皆さんへ = 「生涯教育研修」履修に関するお知らせ =

### 生涯教育研修に参加しましょう

ここでは、生涯教育研修制度の概要をお知らせします。

詳しくは、**日臨技生涯教育研修制度ガイドライン**（平成 14 年改訂／会誌 医学検査・第 52 巻第 6 号・Page 850～891 に掲載）を参照下さい。

#### 1. 生涯教育研修制度は、会員の自主的な生涯研修をサポートするシステムです。

！研修機会の提供 ” 研修記録の保存 を柱としています。

#### 2. 履修資格

##### 1) 「一般教育研修課程」

すべての会員が受講することが出来ます。

「終了証書」の発行は、所定の期間内に必要な点数を取得した者に対して行われます。

修了認定は、各会員の始めて受講したときから 3 年間で 1 サイクルとし、この間に取得した**点数**により行われます。

##### 2) 「専門教育研修課程」

専門教育研修課程は、平成 15 年 5 月現在、次の課程が構築済みで受講可能です。

！管理運営課程 ” 精度管理課程 # 遺伝子検査課程

専門教育研修課程の受講は、事前に申請が必要です。また申請に際しては、次の条件を満たしていなければ履修できません。

「終了証書」の発行は、所定の期間内に必要な単位を取得した者に対して行われます。

修了認定は、各会員の始めて受講したときから 3 年間で 1 サイクルとし、この間に取得した**単位**により行われます。

(1) 一般教育研修課程を 1 サイクル以上終了した者

(2) 並行履修の義務

一般教育研修課程との並行履修が義務付けられております。

(3) 研修年限と履修単位

3 年間に所定の科目を終了し 120 単位以上を取得する。

(4) 研修方法

日臨技主導の会場研修を基本としています。詳しくは、送られてくる履修票をご参照ください。

#### 3. 受講費用

課程、教科、及び研修会等により異なります。開催案内並びにガイドラインをご覧のうえ確認ください。



#### 4. 履修手続き等

生涯教育研修の企画を知る方法

奈臨技ニュース、または  
奈臨技ホームページで  
ホームページアドレス

<http://naraamt.or.jp>

企画の変更を知る方法

奈臨技ニュースに間に合わなかった場合は、各施設にFAXで連絡します  
施設連絡責任者は施設の会員に周知してください

会場研修を受ける時の手続き、記録

日臨技及び奈臨技主催の会場研修を受ける場合は、  
「会員証」を持参し研修登録をしてください  
そして「研修手帳」への記録を忘れずに

会場研修とは

総会や学会及び生涯教育研修委員会が開催する研修会、講習会、講演会を指します  
研究検査部門の勉強会もこれに該当します

自宅研修  
投稿四誌上発表  
図書出版  
ボランティア等

これらを実施した場合は、「医学検査」に綴じ込まれている「自己申告書」を用いて奈臨技生涯教育研修委員会事務局へ申告してください

### 履修通知書

1 回以上参加された場合は、1 年間の履修実績が「履修通知書」として毎年送られてきます。各自の「研修手帳」の記録と照合してください。内容に誤りがあれば、「自己申告書」を用いて訂正書類を添付し、提出ください。

### 終了証書

#### 一般教育研修課程

研修に参加され、3 年を経過し所定の点数に達したとき「終了証書」が送られてきます。送られてこない人は、点数の足りなかった人です。終了と認定される点数は、3 年間で 100 点以上で、次ぎの教科バランスが必須です  
A 教科（15 点以上）+ B 教科（25 点以上）+ C 教科（60 点以上）= 100 点以上

#### 専門教育研修課程

3 年間に 120 単位の取得が必要です。日臨技ガイドライン及び履修申請後、日臨技から送られてくる「履修票」により確認ください。

### 生涯教育研修履修一覧

自分の生涯教育研修履修一覧が必要になったときは、申し出て下さい。

奈臨技生涯教育研修委員会主催の平成 7 年度から平成 12 年度までの履修については奈臨技のデータベースから対応します。

平成 13 年度以降については、日臨技のデータベースから対応します。

### 5. 他府県で研修を受けた場合の届出

他府県主催の生涯教育研修を受けた場合、奈臨技の生涯教育研修委員会へ報告の必要はありません。

研修を主催した都道府県の生涯教育研修委員会から日臨技に報告され、登録されます。

「研修手帳」への記録は、忘れずにお取りください。

6. 認定団体登録（他団体主催の研修会の点数認定）について

日臨技が認定している他団体主催の学会、研修会等への参加は履修実績として登録されます。日臨技が認定している団体は**添付資料**のとおりです。

また、この一覧にない場合でも、奈臨技生涯教育研修委員会に申請することにより認定される場合がありますので事務部会にお問い合わせ下さい。

日臨技生涯教育研修制度認定関連学会・団体等一覧

関連学会・団体は、日本医学会分科会を中心に、次にあげるものである。

(平成14年4月現在)

<関連学会>

- 1 日本アレルギー学会
- 2 日本医科器械学会
- 3 日本医学放射線学会
- 4 日本医史学会
- 5 嫌気性菌感染症研究会
- 6 日本移植学会
- 7 日本医真菌学会
- 8 日本ウイルス学会
- 9 日本衛生学会
- 10 日本衛生動物学会
- 11 日本栄養・食料学会
- 12 日本エム・イー学会
- 13 日本温泉気候物理医学学会
- 14 日本味と匂学会
- 15 日本医用画像工学会
- 16 日本エイズ医学会
- 17 日本炎症学会
- 18 日本音声言語学会
- 19 日本遺伝子診療学会
  
- 20 日本解剖学会
- 21 日本化学療法学会
- 22 日本核医学会
- 23 日本眼科学会
- 24 日本環境感染学会
- 25 日本癌学会
- 26 日本感染症学会
- 27 日本肝臓学会
- 28 日本癌治療学会
- 29 日本気管食道科学会
- 30 日本寄生虫学会
- 31 日本救急医学会
- 32 日本矯正医学会
- 33 日本胸部外科学会
- 34 日本胸部疾患学会
- 35 日本形成外科学会
- 36 日本外科学会
- 37 日本血液学会
- 38 日本結核病学会
- 39 日本口腔科学会
- 40 日本公衆衛生学会
- 41 日本交通医学会
- 42 日本呼吸器外科学会
- 43 日本画像医学会
- 44 日本血栓止血学会
- 45 日本言語療法学会
- 46 日本核医学技術学会
- 47 国際抗菌薬感受性精度管理研究会
- 48 日本検査血液学会
- 49 日本血液同好会
  
- 50 日本災害医学会
- 51 日本細菌学会
- 52 日本産婦人科学会
- 53 日本産業衛生学会
- 54 日本耳鼻咽喉科学会
- 55 日本消化器外科学会
- 56 日本消化器内視鏡学会
- 57 日本消化器病学会
- 58 日本小児科学会
- 59 日本小児外科学会
- 60 日本小児神経学会
- 61 日本循環器学会
- 62 日本自己血輸血学会
- 63 日本自律神経学会
- 64 日本神経学会

- 65 日本人工臓器学会
- 66 日本心身医学会
- 67 日本新生児学会
- 68 日本腎臓学会
- 69 日本心臓血管外科学会
- 70 日本人類遺伝学会
- 71 日本生化学会
- 72 日本整形外科学会
- 73 日本精神神経学会
- 74 日本生理学学会
- 75 日本先天異常学会
- 76 日本失語症学会
- 77 日本磁気共鳴医学会
- 78 日本成人病学会
- 79 日本生体磁気学会
- 80 日本総合健診医学会
- 81 日本先天代謝異常学会
- 82 日本組織適合性学会
- 83 日本受精着床学会
- 84 自動呼吸機能検査研究会
- 85 日本染色体遺伝子検査学会
- 86 日本サイトメトリー学会
- 87 日本小児遺伝医学学会
- 88 日本栓子検出と治療研究会
- 89 日本心電学会
  
- 90 日本大腸肛門病学会
- 91 日本体力医学会
- 92 日本超音波医学会
- 93 日本電気泳動学会
- 94 日本糖尿病学会
- 95 日本動脈硬化学会
- 96 日本東洋医学会
- 97 日本聴覚医学会
- 98 日本電子顕微鏡学会
  
- 100 日本内科学会
- 101 日本内分泌学会
- 102 日本熱帯医学会
- 103 日本脳神経外科学会
- 104 日本農村医学会
- 105 日本人間ドック学会
  
- 109 日本平衡機能検査技術者会
- 110 日本泌尿器科学会
- 111 日本皮膚科学会
- 112 日本病院管理学会
- 113 日本病理学会
- 114 日本不妊学会
- 115 日本法医学会
- 116 日本保険医学会
- 117 日本微量元素学会
- 118 日本プライマリーケア学会
- 119 日本めまい平衡医学会
  
- 120 日本麻酔学会
- 121 日本脈管学会
- 122 日本民族衛生学会
- 123 日本免疫学会
- 124 日本網内系学会
- 130 日本薬理学会
- 131 日本輸血学会
  
- 140 日本らい学会
- 141 日本リウマチ学会
- 142 日本リハビリテーション医学会

- 143 日本臨床ウイルス学会
- 144 日本臨床化学会
- 145 日本臨床血液学会
- 146 日本臨床検査自動化学会
- 147 日本臨床細胞学会
- 148 日本臨床微生物学会
- 149 日本臨床検査医学会
- 150 日本臨床免疫学会
- 151 日本臨床電子顕微鏡学会
- 152 日本老年医学会
- 153 臨床微生物迅速診断研究会
- 154 体外受精研究会
- 155 日本哺乳動物卵子学会
- 156 臨床検査精度管理奨励会
- 157 日本臨床神経生理学学会
  
- 170 FCM研究会
- 171 不妊症新治療ワークショップ
- 172 日本神経生理検査研究会
- 174 補体研究会

<関連団体>

- 200 日本医師会
- 201 日本衛生検査所協会
- 202 日本病院病理医会
- 203 日本眼科医会
- 204 日本病院会
- 205 全日本病院協会
- 206 全国自治体病院協議会
- 207 日本看護協会
- 208 日本放射線技師会
- 209 日本理学療法士協会
- 210 日本作業療法士協会
- 211 日本栄養士会
- 212 日本歯科技工士会
- 213 日本歯科衛生士会
- 214 全国病院理学療法協会
- 215 全国臨床検査技師教育施設協議会
- 216 日本臨床検査薬協会
- 217 医療関連サービス振興会
- 218 国際協力事業団
- 219 国際医療技術交流財団
- 220 国際医学検査技師協会 (IAMLT)
- 221 医療廃棄物研究会
- 222 医療研修推進財団
- 300 厚生省臨床検査技師協会
- 301 厚生省臨床検査技師長協議会
- 302 全国国立大学臨床衛生検査技師会
- 303 日本赤十字臨床衛生検査技師会
- 304 全国労災病院臨床検査技師会
- 305 全国社会保険病院臨床検査技師会
- 306 私立大学病院臨床検査部技師長会
- 307 私立医科大学臨床検査技師会
- 308 全国医師会病院検査センター技師長会
- 309 自治体病院協議会検査部技師長会
- 310 全国自治体病院臨床検査技師会
- 311 共済医学会
- 312 済生会医学会
- 313 都道府県医師会
- 314 市町村医師会
- 315 神奈川県医療専門職連合会
- 316 国立大学輸血部技師研究会
- 400 行政・保健・社会福祉関係

## 生涯教育研修・実施（広報）申請書

\*各項目にご記載いただいた後、送信ボタンを押してください。

\*こちらにご記載いただいた内容はそのまま奈良臨技ニュースの原稿になります。ご了承ください。

提出日 平成  年  月  日

研究班名  選択してください ▼ 科目  選択してください ▼

日時：平成  年  月  日 時間： 時  分から  時  分まで

会場：

分類： A <sup>e</sup> B <sup>e</sup> C <sup>e</sup> 点数： ▼ 点

実施責任者会員番号： 実施責任者氏名：

実施責任者所属：

連絡先電話番号： 内線：

連絡先 E-mail address（あれば）：

主題：

講師名：

講師所属：

会費 会員： 円 非会員： 円

内容：

入力・送信に関するお問い合わせは [info@naraamt.or.jp](mailto:info@naraamt.or.jp) までどうぞ

送信する

全内容を消去

## 生涯教育研修 実施報告書

\*各項目にご記載いただいた後、送信ボタンを押してください。

\*従来の報告と同じです。生涯教育委員会のみ保管となります

(ホームページ掲載用の原稿ではありません)

提出期日 平成 年 月 日

研究班名  選択して下さ  実施責任者氏名:

実施責任者所属:

連絡先電話番号:  内線:

連絡先 E-mail address (あれば):

実施日時: 平成 年 月 日

会場:

主題:

講師名:

講師所属:

携帯端末の使用: 使用  使用せず

参加人数: 名

\*お手数ですが、会員番号に続けて氏名を記載してください。(例: 290777 奈良太郎)

\*36名をこえた場合は、内容の欄に追加分をご記入ください。

### 奈臨技会員 参加者名:

参加者名:	<input type="text"/>	参加者名:	<input type="text"/>	参加者名:	<input type="text"/>
参加者名:	<input type="text"/>	参加者名:	<input type="text"/>	参加者名:	<input type="text"/>
参加者名:	<input type="text"/>	参加者名:	<input type="text"/>	参加者名:	<input type="text"/>
参加者名:	<input type="text"/>	参加者名:	<input type="text"/>	参加者名:	<input type="text"/>
参加者名:	<input type="text"/>	参加者名:	<input type="text"/>	参加者名:	<input type="text"/>
参加者名:	<input type="text"/>	参加者名:	<input type="text"/>	参加者名:	<input type="text"/>
参加者名:	<input type="text"/>	参加者名:	<input type="text"/>	参加者名:	<input type="text"/>

参加者名:       参加者名:       参加者名:   
参加者名:       参加者名:       参加者名:

**他府県技師会会員 参加者名:**

参加者名:       参加者名:       参加者名:   
参加者名:       参加者名:       参加者名:   
参加者名:       参加者名:       参加者名:   
参加者名:       参加者名:       参加者名:

**一般参加者（技師会会員以外） 参加者名:**

参加者名:       参加者名:       参加者名:   
参加者名:       参加者名:       参加者名:   
参加者名:       参加者名:       参加者名:   
参加者名:       参加者名:       参加者名:

内容:

入力・送信に関するお問い合わせは [info@naraamt.or.jp](mailto:info@naraamt.or.jp) までどうぞ

編集後記：

臨床検査は、量的にも質的にも著しく拡大しています。これに伴い、臨床検査技師・衛生検査技師の業務も多様化しています。その結果、検査技師の技能・知識の向上が社会的にも要求されてきています。

そのためにも、（社）奈良県臨床衛生検査技師会版として「平成 15 年度生涯教育研修マニュアル」を改訂しました。

一般教育研修課程は、全会員を対象に研修教育の課程を履修するもので3年間1サイクルとし、専門教育研修課程では管理運営、精度管理、遺伝子検査課程があり3年間で120単位を取得するものです。

今後、必要に応じてプログラムの作成、運営、評価・認定、履修・修了等の目的遂行のため生涯教育活動の推進、実施に関する業務に努力したいとおもいます。

平成 15 年 10 月 担当三役 倉本 哲央  
担当部長 新木 義之